
ハヤテのごとく！ 新たな来訪者

熾天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハヤテのごとく！ 新たな来訪者

【Nコード】

N 6 3 7 4 Z

【作者名】

熾天

【あらすじ】

お嬢様と共にムラサキノヤカタで過ごすハヤテのもとに、ある少年が訪れた。

これは、この少年とハヤテを中心に巻き起こる物語である。

プロローグ（前書き）

お初お目にかかります。熾天と申します。

この話は、ハヤテのごとくの設定を基にしたまったく別のお話と捉えてください。

オリ主だし、ギャグっぽくないし。

でも、読んで頂けたら嬉しいです！！

感想とか頂けると尚嬉しいです！！

それでは、しばしおつきあいお願いします。

プロローグ

朝か夜か、それすらも曖昧な午前3時。
寂れた港に立つ者がいた。

「……あれから八年か。長いもんだ。ここもすっかり変わったな……」

男の頬には大きな傷があった。

彼は、波止場に立って黒い海を眺めている。正確には、もう沖に出てしまつて、豆粒程の大きさになつてしまつた船を見つめていた。彼は、その船に乗つてきたのだつた。遠く、異国の地より……。不意に風が吹いた。向かい風が顔に吹き付け、彼は思わず目を瞑つた。

再び目を開けると、そこにはもう船の姿は見えなかつた。

水平線を眺めながら、彼は右手で傷に触れた。

傷は、左目尻から鼻の脇にかけて、左目頭から耳の前辺りまである大きな十字傷であつた。

齡十も半ば程と思われる少年にはまだあどけなさが残つていた。それだけに、日に焼けた浅黒い頬に、この拭えぬ刻印はいささか似つかわしくなかつた。

少年は憂い気に傷に触れる。それが、自らが背負つた十字架であるかのように。

「おんやあ？ どうしたつちやとねあんちゃんはこんな所で」

「いえ、少し考え事を」

同じく、不思議な時間に現れた老人が少年に問う。酷く訛つたその

言葉は、地元の人であることを雄に語っていた。

少年は老人に対して微笑むとそのまま波止場から去ろうとした。

老人が慌てて振り返ると、再び風が吹いた。

向かい風に目を覆った老人が目を開けると、既に少年の姿はなかった。

彼は、歩きながらふと空を見上げた。うつすらと明るくなり始めた空にはまだ、星が輝いていた。

「綾崎ハヤテ……お前は今、どこにいる」

そう呟くとまた、そろそろと歩き始めた。

ブログ（後書き）

いかがだったでしょうか？

これから、随時更新して行きますので、これからもおつきあいお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6374z/>

ハヤテのごとく！ 新たな来訪者

2011年12月21日13時50分発行